

いつもお世話になっております。
今月分の請求書を送付いたしますので、何卒ご査収の程よろしくお願い申し上げます。

いつもお世話になっております。
大阪は寒い日と暖かい日をくりかえしながら、日増しに春めいてきました。
皆さまはいかがお過ごしでいらっしゃいますか。

上野の森美術館で開催された東京展にひきつづき、大阪にもフェルメール展がやってきました。東京でご覧になった方もいらっしゃるかもしれません。
東京と大阪では展示内容が異なり、東京では9作品・大阪では6作品が展示され、フェルメールと同じ17世紀の時代を過ごした画家たちの作品が、多く展示されていました。フェルメールの代表作、青いターバンを巻いた少女が印象的な『真珠の耳飾りの少女』は展示されていなかったのが少し残念でした。
現存するフェルメールの作品はわずか35点とされ、希少性も人気の一つなんだそうです。

『光の魔術師』とも称されるフェルメールの作品は、何気ない日常のシーンが描かれています。窓からのふりそそぐ光に照らされた女性の姿を、扉のすきまからうっかり覗き見てしまったかのような気持ちになります。絵の中の女性の感情や話し声、ため息や吐息が、まるで聞こえてくるかのようなようでした。

フェルメールと同じ17世紀、同じオランダで活躍していた画家、レンブラント。
ふたりとも、生前に高い評価を得た時期もありましたが、晩年は大変な苦勞されたそうです。時代は200年ほど下りますが、オランダ出身の画家、ゴッホが心の病で苦しみ、また生前には絵が1枚しか売れなかったというの有名な話です。

死後数百年もあとに、自分の描いた絵が多くの人によって称賛され、高い価値がついている事を、画家たちはどういう風に思っているのかな？と、いつも考えてしまいます。特にゴッホの絵は、生前には見向きもされなかったのです。タイムマシーンで過去に戻って、未来の人にあなたの絵は称賛されるのだと教えてあげられたら、ゴッホは苦しみから逃れられるのだろうか・・・なんてどうしようもないことを妄想してしまいます。ゴッホがそれを知ったとしても、また別の理由で結局は病んでしまうような気がします。

今では数十億という価値で取引されているのに、そのほんのわずかでさえも画家本人に渡ることは決してないのです。例えば、埃まみれの古い絵がアンティークショップで二束三文だったのに、それがゴッホと分かった途端に高値がつく。その絵自体は、なにも変わっていないのに。絵画の価値って何なのでしょう？高く転売できることが価値なのでしょう？

そんなことを取り留めも無く考えるうちに・・・そもそも「価値」って何なんだろう？わたしの「価値」は誰が決めるのだろうか？わたしは何かの「価値」をどう評価しているのだろうか？・・・そんなことを、改めて考えさせられたフェルメール展でした。

これを書いている今日の時点では桜はまだまだですが、みなさまのところに届くころには、咲き始めているのかもしれないね。
決算時期でお忙しい方も多くいらっしゃると思いますが、お仕事が軽やかにスムーズにどんどん片付きます様にお祈りします。
楽しい春をお過ごしくださいませ。



フェルメール展の会場にて



夜道に白い木蓮が輝いていました